

2-P-9

災害関連死予防のための避難所支援のあり方に関する研究その2 ～災害を経験した2つの地域と災害が未経験な地域の比較検討～

高藤真理
足立了平

私たちは、先行研究やこれまでの災害支援活動から、災害関連死に肺炎が多く、それは誤嚥性肺炎の可能性が高いことを経験している。それらを防ぐには、被災した早期からの口腔ケアが重要であり、口腔保健の徹底が必須である。

先行研究では、今後発生する災害において設置されるであろう避難所の環境を整備し適切な支援を実施することによって避難者の健康悪化を防止し、災害関連死をできるだけ少なくすることを目的として、東日本大震災を経験した被災地3県の介護施設にアンケートと現地聞き取り調査を実施した。災害関連死で上位を占める肺炎を予防するために早期より簡便に実施可能な口腔ケアは必須であるが、福祉避難所における相対的介護力低下は口腔ケアを省くことにつながったと考えられることから、福祉避難所に対する早期からの支援が肺炎の予防に有用であるという結果を得た。

これらを踏まえ、阪神・淡路大震災を経験した神戸を中心とした兵庫県の介護施設にアンケートを実施した。今回の調査結果と先行研究の結果に加え、関連研究で研究協力を行った神奈川県横須賀・三浦半島地域のアンケート結果を比較したので報告する。

2-P-10

多職種協働における歯科衛生士の活動状況からみた課題の検討

溝部潤子
中道敦子 破魔幸枝

【目的】「がんの周術期医療」における歯科衛生士の活動状況から課題を抽出し、他職種協働において歯科衛生士に必要な能力を検討した。(研究倫理：神常短研倫第14-03号)

【対象・方法】地域がん診療連携拠点病院397施設に10項目の質問で構成したアンケートを郵送し回収期間3週間とした。回収データは、SPSS Ver.11を用いて処理した。

【結果・考察】回収率は39.8%で、回答職種は歯科衛生士57.0%、歯科医師27.0%、看護師9.0%であった。歯科衛生士に期待する能力は、他職種への口腔のケア法の指導15.7%、医科系疾患の知識14.1%であった。歯科衛生士への希望は、上位から病棟での口腔のケア34.4%、他職種への指導・教育34.4%、退院時の地域歯科医院への連携が19.7%であった。また、課題については1)口腔のケア依頼時、2)歯科衛生士との情報共有で、前者51%、後者39.0%であった。これを職種別にみると、歯科衛生士のみが1)では依頼方法に課題を感じていないの方が上回り、2)では課題を感じている者が半数を占めた。内容の自由記述では、病院の中で口腔のケアの専門職として求められながらも組織の中で閉塞している様子が推測できた。

【結論】歯科衛生士が能力を発揮するためには、口腔のケア技術支援の向上にとどまらず、専門職協働における環境整備と情報共有のツールの開発が有効であると思われた。